

# 東京江東ロータリークラブ

2022~2023年度 テーマ

イマジン ロータリー

IMAGINE ROTARY

RI 会長 ジェニファー E. ジョーンズ 地区ガバナー 嶋村 文男

楽しもうロータリー

～仲間を増やし みんなで楽しい未来へ～  
クラブ会長 小野 綾子

今日の卓話

次回例会案内

古賀讓治会員  
イニシエーションスピーチ

年末家族会

Vol. 61

No. 14

第2854例会  
2022年12月6日号

E-mail : koto.re@sweet.ocn.ne.jp http://www.koto-rotary.jp

例会報告

11/15 訂正出席率 86.36%  
11/29 会員数 22 名中 17 名 出席率 77.27%



## 会長・幹事報告



- ・12/3 (土) Imagine Rotary ワークショップ～環境～(於：船堀タワーホール：伊藤海会員参加しました。
- ・次の例会は、12/6 (火) クラブ年次総会・昼例会です。欠席される方は早めにご連絡ください。
- ・2022年12月のロータリーレート【1ドル138円】

【配布物】アースデーブックアースチラシ

【回覧】たよりウィズNO.289 たんぼほの会 たんぼほ通信秋号

<委員会報告・その他>

鈴木隆雄財団委員長：ロータリー研究会報告



## 私の趣味・家族・仲間たち

・鯉洲信行会員・

まず私は会計士、税理士を生業としています。最近は何となく仕事にしんどくなってきた今日この頃です。監査法人にも所属していますが、そろそろ引退しようかな?とも考えています。妻も税理士で大手監査法人の税理士法人に勤務しています。私とは違い真面目で優秀であります。本も書いてたり凄いです。家事はあまり得意ではありません笑。娘は社会人4年目で損保会社勤務しています。成田に住んでますが週末は、必ず家に帰ってきて友人たちと飲んできております。息子は、大学3年でコロナに巻き込まれた世代で可哀想な学生生活を送っています。今は会計士の勉強をしております。以上私の家族紹介でした。

## ニコニコボックス



小野会長：竹本さま、本日楽しみにしております。

末次幹事：親睦旅行楽しかったです！

大澤栄一ガバナー補佐：昨日までの親睦旅行楽しかったです！今回参加できなかった方次回一緒に楽しみましょう！

伊藤 (三) 君：親睦旅行の御一行様お疲れ様でした、楽しい一時を過ごされた事と思います。

大澤 (秀) 君：今月やっと二人目のおじいちゃんになりました。

大島君：オミクロン株を落ち込みますように。

鈴木君：11月、ロータリー財団月間です、よろしくお祈いします。

小嶋君：昨日の親睦旅行お疲れ様でした、又板倉さん大活躍ごろうさん！

大島君：竹本さん講話宜しくお祈いします。

河西君：本日も宜しくお祈い申し上げます。

伊藤 (海) 君：竹本さん、よろしくお祈いします。

板倉君：昨日親睦旅行行ってまいりました、事故無く楽しく過ごしてきました。12月は年末家族会です。皆様のご協力いただきたくよろしくお祈いいたします。

田澤君：竹本様、本日は、宜しくお祈い致します。

熊川君：本日も、よろしくお祈いします。

益子君：本日の卓話、竹本様宜しくお祈いいたします。

平手君：竹本様卓話楽しみにしております。

大木君：本日もよろしくお祈い申し上げます。

合計 65,000円  
累計 743,000円

事務局は午前10時から午後16時まで、囲碁や将棋・談話室として利用できます。掲示板も活用してください

●例会場 / 東京都江東区東陽 6-3-3 ホテルイースト21 東京内 TEL : 03(5683)5683 ●例会日 / 毎週火曜日12時30分~13時30分  
●事務局 / 東京都江東区東陽 6-3-3 ホテルイースト21 東京内 TEL : 03(5632)3777 FAX : 03(5632)3737

# 私見：金融政策の出来ること、出来ないこと



## 1. 日本銀行の業務

日銀は、色々な業務を担っている。教科書的な説明からはやや離れるが、自分は「皆さんの手許にあるお金が、今日も明日も安心して使えるようにすること」を目指して仕事をしていると考えている。具体的には、①お札が本物できれい(銀行券の安定的な流通)、②人から人へ資金が無事にわたる(決済システムの安定)、③お金の価値が変わらない(物価の安定)、④銀行に預金しても、なくなる心配はない(金融システムの安定)、という4つの分野に関連した業務を幅広く行っている。

お金がいつでも安心して使える環境さえ整ってれば、社会や経済は安定するし、その社会が本来持っている力(潜在成長率)に沿った成長がしやすくなるはずである。

## 2. 伝統的な金融政策

そして、日銀は、景気や物価についてくまなく調べた上で、金利の水準を調節することで物価を安定させる役割を担っている。こうした一連の対応を「金融政策」と呼んでおり、①景気が過熱しそうなときには、世の中の金利全体を上げ(金融引締め)、②経済活動がさえないときには、企業等が資金を借りやすい環境にしようとして、金利を下げていく(金融緩和)。なお、金融政策は、車でいえばブレーキにあたるものであって、エンジンやアクセル役ではない。ブレーキを緩めることで、暫く時間稼ぎはできても、それだけで潜在成長率自体を引き上げることはできないのである。金利水準を上げ下げすると説明したが、伝統的な金融政策では、日銀は「短期金利」(銀行同士が、短期の資金を貸借するときの金利)を調節目標にしてきた。具体的には、短期金融市場(銀行同士が、短期資金を貸借する市場)の需給をみて、短期金利が目標とする水準(政策金利)になるように、日々、銀行から国債等を買って短期資金を沢山提供したり、あるいは逆のことをしたりしている(金融調節)。銀行の貸出金利や預金金利、あるいは国債発行の金利など、国内のあらゆる短期・長期の金利水準は、この短期金利の水準に大きく影響される。こうしたことから、日銀が政策金利をどの水準にするかは大変重要となる。

## 3. 「デフレ」と金融政策

ここ数十年の日本経済を振り返ると、潜在成長率は随分下がってしまった。一時期は、デフレ・スパイラルが発生するリスクさえみられた。「デフレ」というのは、本当はデフレーション(物価下落)の略語だが、日本では「景気のぱっとしない状態」の意味で使われがちである。世間が「デフレからの脱却が大事」というときには、物価の上昇のことでなくて景気の持ち直しの方を、実は期待している。そして、本当は潜在成長率を引上げることが大事なのに、それがなかなか難しい中で、長年に亘って極端な金融

緩和で「デフレ」からの脱却を実現させようとしてきたように思う。

## 4. 非伝統的な金融政策

日銀は、バブル崩壊後、たびたび金融緩和をして景気浮揚に努めてきたが、1990年代の終わりには、ついに政策金利は0.25%になった。伝統的な金融政策では、一段の緩和はもう出来ない。しかし、日銀は七転八倒しながら、その後も無理やり新しい緩和策を編み出してきた。それが、所謂「非伝統的な金融政策」である。具体的には、①まずは、政策金利をゼロにした(ゼロ金利政策：1999年)。また、②銀行が使いやすい短期資金を潤沢に提供しようと、銀行が日銀に預けている当座預金(日銀当座預金)の残高を極端に増やした(量的緩和策：2001年)、③その見合いに、国債を大量に購入してきているが、これによって以前は政策目標としてこなかった長期金利の水準も思い切り下げた。さらに、④そうした新たな緩和措置を「物価2%が実現するまでは続ける」といった宣言までしている。今の「異次元緩和」(2013年。マイナス金利政策<2016年>、イールドカーブ・コントロール政策<2016年>を含む)は、そうした一連の対応を極端なかたちで推し進めたものである。こうした新たな政策は、前代未聞であったし、名前も派手であった。そして、経済の下支えや金融市場の安定化には、それなりに貢献した。しかし、本当の問題は潜在成長率が低下していることである。だから、非伝統的な金融政策という名の下で僅かな追加緩和をしたところで、経済が再生しないのは当然である。異次元緩和の功績というのは、非常に皮肉であるが、「日銀が(短期資金の)量さえ増やせば、日本は元気になる」「日銀の緩和が足りないのがいけない」といった根拠のない日銀批判がさすがに聞かれなくなったことである。アベノミクスの「三本の矢」では、金融政策や財政政策で時間を稼いでいるうちに、成長戦略を軌道にのせるはずであった。異次元緩和頼みで、構造改革をこの10年怠ってしまったのは大変残念である。今こそ、覚悟を決めて、官民挙げて日本の真の再生に向け大胆に社会を改革していくしかない。

